

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874600188		
法人名	医療法人社団創生会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	兵庫県豊岡市但東町中山679-1		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事への参加や風習を大切に、地域の店舗の利用も継続している。園芸も継続しており、季節の野菜を作り、植え付けから収穫までを行っている。調理など家事全般、風習にちなんだもの作り、季節行事などご入居者と一緒に行っている。本人・ご家族を含め、チームとしてご本人の生き方や活動の支援に努めている。そのためにも面会時やお便りでご様子をお伝えし、情報を共有できるよう努めている。
職員体制については、子育て中のママさんや高齢になっても末永く働ける職場作りを目指している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然と広い敷地に恵まれた静かな環境にあり、ケアハウスと併設されている。旧中学校舎を利用した本館と新館は広く開放的で、採光よく清潔感がある。今年度は、外出や地域交流が困難な状況であるが、敷地内や近隣の散歩、畑での花や野菜の栽培や収穫、事業所内での行事、調理・洗濯などの家事参加等、生活の中で楽しみや役割が持てるよう努めている。季節感や行事食を採り入れた献立、手作りの調理を継続し、職員と一緒に家庭的な食事風景を大切にしている。施設合同の研修・各種委員会・会議・避難訓練を実施し、タブレット・インカムを活用し施設全体での情報共有と協力体制が築かれている。定期的なアセスメントと介護計画に基づいた個別支援に取り組んでいる。看護師の配置・通院時の同行支援等の医療連携があり、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関に掲示、及び日誌の中にあり、常に周知できるよう努めている。理念に沿ったケアのあり方等職員教育を行っている。	新たな法人の理念・基本方針を事業所の理念・基本方針とし、その中に地域密着型サービスの意義を取り入れている。入職時のオリエンテーションで説明し、共通理解を図っている。各ユニットに掲示し、日誌に綴じて日々の共有に努めている。また、職員会議の中で理念に関するプチ研修を行ったり、サービス・支援・運営等について検討する際には理念に立ち戻って話し合い、理念の実践につなげるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や店舗の利用を継続している。また在宅からの主治医との繋がりも続けている。	例年は、地域の夏祭り・地域イベント・小学校の運動会等、地域に出かけ交流する機会を設けている。こども園児・小学生の来訪があり、また、施設の収穫祭には地域住民や高校生のボランティアの参加があり交流している。傾聴やピアノ演奏・演芸・踊り等、ボランティアの来訪もある。現在は、近隣への散歩・買い物・理美容・通院を、可能な範囲で継続している。また、地域行事の作品展示会への出品や、移動バン屋の利用など、地域とのつながりが持てる機会作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加や店舗を利用することにより、認知症の人や職員のかかわり方を知って頂く機会を作っている。		

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活動報告や介護業界の動向等報告を行っている。緊急時対応や避難訓練にも参加をして頂きご意見を伺っている。</p>	<p>通常は、家族・市職員・民生委員・小学校校長・コミュニティセンター地域マネジャー・地元代表を構成メンバーとし、併設施設と合同で、2か月に1回開催している。会議では、資料を配布し、利用者の状況・事業所の取り組み・行事・研修・事故ヒヤリハット事例・身体拘束適正化委員会内容などを報告し、多職種の参加者からの情報や意見を運営やサービスに活かしている。会議の際に避難訓練・行方不明者対応訓練・感染症対応訓練に参加してもらえるように工夫し、施設の取り組みを伝えると共に、協力を依頼している。議事録は、玄関に閲覧ファイルを設置し公開している。令和2年3月以降は会議を休止し、構成メンバーに報告書を郵送している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にて情報交換を行っている。市が派遣する介護相談員の受け入れも行っている。</p>	<p>通常は、市が派遣する介護相談員の受け入れを通しての連携があるが、現在は休止している。運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の状況や取り組みを伝え、情報提供を受け連携している。現在は、会議開催は休止し、報告書で報告している。豊岡市サービス連絡協議会のオンライン会議や研修に参加している。市からメールで配信される新型コロナウイルス関連の最新情報を活用し、また、介護保険関連の質問などがあれば都度電話で助言を受け、連絡を密にとっている。</p>	

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修を行っている。重要事項説明書に方針を明記している。日中は玄関の鍵をかけず、外出の希望があれば職員が付き添って出かけるようにしている。</p>	<p>「身体拘束等の適正化の指針 及び 身体拘束に関するマニュアル」を整備している。重要事項説明書に方針を明示し、利用者・家族に説明している。毎月のユニット会議の中で検討した内容をもとに、職員会議の身体拘束適正化委員会で、身体拘束事例の有無・(事例があれば)状況及び見直し(必要性)について検討し、適正化に向け取り組んでいる。会議の内容は、議事録の回覧で周知を図っている。毎年、身体拘束適正化についての研修を実施し、今年度も年度内に研修を予定している。職員会議の、「職場の風潮」の中で、スピーチロックについてユニット毎に振り返る機会を設け意識付けを行っている。日中は玄関の鍵はかけず、また、利用者に外出の意向があれば職員が同行し閉塞感を感じないように取り組んでいる。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>不適切ケアの研修を行っている。法人内の事例も含め、不適切ではと思える案件は上司に相談し、全体への周知を行っている。</p>	<p>「虐待防止」についても毎年研修を実施し、今年度はレポート研修とし、全職員が研修報告書を提出している。職員会議の、「職場の風潮」の中で、不適切ケアについてユニット毎に振り返る機会を設け意識付けを行っている。気になる言葉かけや対応があれば、都度注意喚起すると共に、タブレットで共有し、不適切ケアの未然防止に努めている。話しやすい職員環境づくり、ユニット会議での課題検討、プリセプター制度の導入・介護技術研修等、職員のストレスや不安がケアに影響することがないように取り組んでいる。</p>	

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて学ぶ機会を設けている。成年後見制度については、玄関にパンフレットを設置している。	「成年後見制度」について、「認知症ケア」や「人権擁護」の研修の中で、毎年研修を実施している。現在は制度を利用している利用者はいないが、過去には事例があり、また、現在も利用に向け手続きを行っている事例がある。事業所としても、制度利用や利用開始の支援を行っている。各ユニットにパンフレットを設置し、利用の必要性や家族等からの相談があった場合は、管理者が窓口となり、関係機関と連携して支援する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・その他同意書一式を事前にお渡しし、契約時には改めて説明を行っている。	入居希望の見学を受け入れ、施設内を案内しながらパンフレット・料金表等で説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・各種指針や同意書等に沿って、質問を受けながら丁寧な説明に努めている。特に、利用料金や退居要件については具体的な説明を行っている。契約内容の改定時には、文書で通知したり、また、変更内容を明示した文書で同意を得る等、内容に応じて対応している。契約終了時には、利用者・家族の意向を聴き、併設の施設や市内の施設などについて情報提供する等、円滑な退去に向けた支援に努めている。	

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス時や面会時にご意向を伺うようにしている。	通常は、面会時に近況を報告し、玄関に意見箱を設置し、主に面会時や介護計画更新時のカンファレンスで、家族に意見・要望を聴く機会を設けている。現在は、主に電話での把握となっている。担当職員が写真と文書の「お便り」を毎月郵送し、意見・要望が出やすいように努めている。把握した意見・要望は、タブレットで共有し生活支援に反映したり、カンファレンスで検討し介護計画に反映している。運営推進会議への家族の参加や、介護相談員・傾聴ボランティアの受け入れ（現在は休止中）により、外部者に意見等を表す機会作りを行っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各委員会やユニット会議、職員会議において職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	各種委員会（医務感染対策・事故防災対策・園芸地域活動・食生活向上）・ユニット会議・職員会議を月に1回実施し、職員の意見・提案を、利用者の支援・サービス・業務改善・運営等に反映できるように取り組んでいる。議事録の回覧により、内容の周知を図っている。会議の前にタブレット記録の「分類」を活用して必要な資料を作成し、課題や検討内容を明確にし、効率的に進行できるよう取り組んでいる。随時の意見・提案はタブレットで共有し、それに対する意見・回答もタブレットに記入し、施設全体で共有できる仕組みがある。また、インカムを活用し、迅速に情報共有したり協力・対応できる仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意向や勤務形態に配慮し、末永く勤められるよう努めている。		

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの担当業務については、出来るだけ勤務時間内にできるよう配慮している。外部研修も含め研修案内を行い希望者には参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊岡市サ連協の研修案内も行き、希望者には参加できるよう配慮している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時カンファレンスを行い、主訴を元にご本人にとってしてほしい事、してはいけない事をお聞きし、ユニット内で周知している。また新規用の記録用紙を用い、ADLや価値観、生活サイクルなどを知り、ケアに活かせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時カンファレンスを行い、ご家族の困っている事、入居後のご意向をお聞きし、ユニット内で周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に状況をお聞きし、他に支援できるサービスがないか一緒に考え提案をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを一緒にして頂くことを基本としている。(家事全般、得意なこと等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り等で状況をお伝えするとともに、カンファレンスに参加して頂き、情報を共有し一緒に支援している事をお伝えしている。		

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容店の利用、主治医、友人の面会等継続している。	入居時の家族記入のアンケート(情報提供書)やアセスメントシートで、馴染みの人や場所についての情報の把握と共有に努めている。通常は、家族・親族・友人の訪問を歓迎し、居室でゆっくり過ごせるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。例年は、利用者自身の地元の祭りや老人会への参加を支援している。現在は、面会は休止し、可能な範囲で、馴染みの理美容院・かかりつけ医・スーパー等へ出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理参加等一緒に活動を行ったり、食席を配慮している。困っているとお互いに声をかけ合う姿も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族に出会う機会もあり、声をかけて下さったり、様子をお伺いしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話からご意向を伺うようにしている。思いが伝えられない方には、ご家族も含めて検討している。	入居時の家族記入のアンケート(情報提供書)やアセスメントシートから、思いや暮らし方の希望の把握に努めている。アセスメントシートは詳細な項目で構成され、生活歴・趣味・生活サイクル等が把握できる書式である。日頃から1対1の会話を大切に、会話の中で把握した思いや意向を具体的にタブレットに記録している。毎月のユニット会議や6ヶ月毎のアセスメントで共有し、支援や介護計画に反映している。把握が困難な場合は、表情や反応から把握に努め、家族からの情報や意見を参考にし、本人本位に検討するよう取り組んでいる。	

グループホームこころ

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのアンケートやご本人からの情報を知ることにも努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに記載し情報共有を図っている。 身体状況に応じてその都度対応している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット内での日々の検討を始めとし、ユニット会議で検討。更新時にはアセスメント用紙を職員間で回覧し現状を記載。カンファレンスにてご家族と情報共有しご意見やご意向を踏まえケアプランを作成している。、	入居時に、家族記入のアンケート(情報提供書)とアセスメントシートをもとにカンファレンスを行い、「初期ケアプラン」を作成している。カンファレンスと回覧で、職員に介護計画の周知を図っている。サービスの実施内容や利用者の様子や状況は、タブレットに「分類」を記入しながら、時系列に記録している。さらに、利用者個々の計画内容を反映した個別の「介護記録」を作成して記録し、計画に基づいたサービス実施状況が明確になるように取り組んでいる。毎月のユニット会議で、利用者の状況やケアについて共有し、課題を抽出して検討している。初期ケアプラン後は1ヵ月、その後は定期的には6ヵ月毎に計画の見直しを行っている。見直しの際には、モニタリング、アセスメントシートによる再アセスメントを行い、家族同席でカンファレンスを行って検討している。利用者・家族の意向、医療など関係者の意見もアセスメントシートに記録し、計画に反映している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容を介護記録に挙げ、日々の様子や実践状況を記入している。定期的に評価を入れ、変更事項があれば都度記録を変更している。		

グループホームこころ

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内での活動だけではなく、地域に向く活動を取り入れている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事として作品展覧会があり、出品することにより張り合いができた。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの主治医を基本としている。専門医への相談やいざという時に対応できるよう協力医療機関への通院変更も行った(通院が負担、専門医が遠方で体調不良時の受診等)。	入居前からのかかりつけ医での受診を基本とし、受診の際は職員が同行し、状況に応じて家族も同行している。受診結果はタブレットの個人記録の「医療関係」の項目に記録し、情報共有している。必要に応じて、協力医療機関で内科・形成外科・眼科を受診できるよう支援している。希望者は訪問歯科による往診を受けられる体制がある。日々の健康管理や処置、医療機関への連絡等は、看護師が対応している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配属により、日々の状況把握や相談がしやすく早期対応が可能となった。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い、お互いに入院中の問い合わせが出来るよう打ち合わせをしている。	入院時に「介護サマリー」を提出し、医療機関に情報提供している。例年は、入院中に面会に行き、利用者の様子を把握し、退院前には看護師が退院時カンファレンスに参加している。現在は、主に電話で情報交換し、病院関係者と連携を図り早期退院に向け支援している。退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、事業所でカンファレンスを実施し、状況に応じた支援となるよう介護計画の見直しを検討している。入院中に把握した情報はタブレットに記録し、カンファレンス議事録とともに、タブレットで共有している。	

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医、施設との3者でカンファレンスを行い、状態の情報共有と今後の方針を共有している。	入居時に「ターミナルケアに関する指針、体制について」に沿って、事業所の方針を家族に説明し、同意を得ている。6ヶ月毎の再アセスメントとカンファレンスで、終末期についての意向を確認している。重度化を迎えた段階で、かかりつけ医の説明を受け、事業所でできること・できないことを説明している。看取り介護を希望された場合は、「ターミナルケア同意書」で家族の同意を得ている。カンファレンスを実施し、看取りの介護計画書を作成し、かかりつけ医・看護師と連携しながら、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。毎年、「ターミナルケア」研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践を踏まえた内部研修を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践を踏まえた内部研修を行っている。年2回の避難訓練には運営推進委員にも見て頂き、協力体制を築いている。	事故防災対策委員会が中心となって、毎年、日中想定と夜間想定総合避難訓練を、本館・新館・ケアハウス合同で、入居者も参加して実施している。日中訓練の日を運営推進会議の日に合わせて、消防署立ち合いのもと、地域と行政との協力体制を築いている。参加できなかった職員には、訓練記録の回覧で周知を図っている。「災害時対応」研修も実施している。今年度も、消防署立会いのもとでの訓練と研修を実施した。(運営推進会議は休止中のため、メンバーの参加はなかった。)非常食と災害時用備品を各事業所で備蓄している。また、近隣スーパーとも提携している。	

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員対象に内部研修や職員会議にて人権やプライバシーについて学ぶ機会を設け、周知することに努めている。	「接遇」「人権擁護」「認知症ケア」等様々な研修の中で、尊厳やプライバシー保護について学ぶ機会を設けている。毎月の職員会議の中で「職場の風潮」(態度・言葉づかい・スピーチロック・プライバシー等)の項目を設け、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について確認し意識向上に努めている。入居時に「個人情報同意書」の中で、おたより・ブログ・広報誌等に分類し、写真・映像の掲載についての意向を確認している。個人情報等の書類は、各ユニット内の鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1で話ができるように努めている。洋服の選択や出来る範囲の自己決定を促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合わせた対応を行っている。散歩や理髪、畑への思いにも対応した。日によっては居室で過ごすことを望まれる事もあり。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の洋服や外出着の選択、化粧へのサポートを行っている。		

グループホームこころ

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、調理参加をして頂いている。こちらが声をかけなくても自然に参加して下さる方もいる。	各ユニットで、利用者の嗜好や希望に応じて献立を作り、毎食手作りの家庭的な食事を提供している。ほぼ普通食での提供であるが、利用者個々の状況に応じて、食事形態を個別に調整している。食材は業者への発注、近隣のスーパーでの買い物、畑で収穫した旬の野菜も使用し季節感が味わえるようにしている。利用者も下準備・調理・盛り付け・食器洗い・後片付け等、個々の好みや得意に合わせて参加できるように支援している。栽培や収穫・行事食・イベント食(例年は収穫祭・感謝祭・出張寿司)等、食を楽しむ機会を設けている。定期的に食生活向上委員会を開催し、利用者の調理参加状況・調理ヒヤリハット・食事の支援方法等の確認や嗜好調査を行っている。食事の際は職員も一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少なければ、嗜好に合ったものや栄養補助食品を提供している。水分に関しては、時間を決めず提供したり、水分ゼリーを提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後もしくは就寝前には口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科で診て頂いている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜、排泄スタイルの見直しを行っている。体調不良や骨折等で一時的にオムツ対応になっても回復に応じてトイレでの排泄に戻すよう努めている。	定期的なアセスメントで自立度を確認し、タブレット内の記録で利用者個々の排泄状況・排泄パターンを把握している。必要に応じた個別の声かけ・誘導・支援を行い、日中はトイレでの排泄・排泄の自立に向け取り組んでいる。毎月のユニット会議で利用者個々の状況を共有し、看護師の指示も受けて、現状に即した介助方法・排泄用品使用を検討している。排泄誘導時・介助時には、羞恥心・プライバシーに配慮している。	

グループホームこころ

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動低下に伴い、コントロールが必要な方が増加。未便対応表を作成し、個々の薬や活動レベルに合わせ細かな調整が可能となった(看護師配置)。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に入浴時間を決めて頂いたり、状態に合わせた対応をしている。	週2回の入浴を基本とし、個浴で、利用者のタイミングやペースに合わせて、希望の時間帯に入浴できるよう支援している。同性介助を基本とし、入浴に拒否がある場合は無理強いはせず、声かけやタイミングを工夫している。必要に応じて一部2人介助・足浴とシャワー浴で対応し、安全に清潔保持ができるよう支援している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のタイミングや場所に配慮している。日中の活動も含め、夜間安眠に繋がるよう努めている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬BOXを変更した。個別の薬内容を表示し、チェックができるように行った。ケアプランに病状と薬内容、副作用を記載し周知に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活躍できる場面造りに努めている。体操や挨拶など得意なことや今までしてきたことを発揮して頂いた。		

グループホームこころ

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所への散歩や散髪への希望等施設外に出かける支援を行っている。遠方への外出は出来なかった。	例年は地域の夏祭り・盆踊り・学校運動会・チューリップ祭り等、地域行事に参加している。今年度は地域行事が実施されず参加できない状況であるが、敷地内で散歩や外気浴をしたり、畑やベランダのプランターで野菜や花を育てる等、戸外に出る機会を設けている。野菜は利用者と収穫して調理に取り入れ、季節の花はリビングや玄関に飾っている。また、可能な範囲で近隣スーパーへの買い物や、理美容店に出かけたり、地域行事の作品展示会に出品して見に行く機会も設けている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望がある場合、ご家族のご理解と了解のもと所持して頂いている。移動パン屋がありできるだけご自身で選び支払いをして頂くよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に、ご家族への電話について了解を頂き、直接話ができるよう支援している。ご家族からご本人への電話の取次ぎも行っている。携帯電話を所持されている方もある。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内の配置に配慮している。ご入居者の不安や相性にも配慮し、テーブル配置や移動空間、季節感が味わえるような壁面等居心地よく過ごせるよう努めている。	本館(元中学校舎をリフォーム)・新館とも、大きな窓から自然の風景がよく見え、日々季節が感じられる。リビングは広く、採光がよく明るく、清潔感がある。テーブル席、畳の部屋、又は、ソファの部屋があり、大型テレビやマガジンラックを設置して、利用者が思い思いに寛げる環境である。長い廊下に手すりが設置され、日常的に生活リハビリに活用している。トイレの表示、居室の表札や飾り等、場所間違いの防止に工夫している。畑やベランダで育てた花を飾ったり、季節の飾り付けを行う等、季節感を取り入れている。台所から手作りの調理の音や匂いが感じられ、利用者も家事に参加できるように支援し、生活感が感じられるよう努めている。	

グループホームこころ

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者の状態により、1人になれる空間を作ったり、リビング内のテーブル配置などを変更した。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の居室だと分かるように馴染みのある家具を配置したり、ご本人の生活や動作に沿った環境を整えている。	本館・新館の居室は全室和室で、洗面台・押し入れ(クローゼット)・ベッドを備え付けている。自宅からなじみのある家具(たんす・椅子・ソファ等)・寝具・テレビ・装飾品・写真・仏壇等が持ち込まれ、居心地良く過ごせる空間となっている。入居前に自宅を訪問し、ベッドの向き・敷居の高さ・家具の配置等の把握に努め、本人や家族と相談しながら、できるだけ自宅での生活や動線に沿った環境で安全に過ごせるよう支援している。身体状況の変化に応じて、居室の家具の配置等を検討し、手すり歩行や椅子での休憩ができるよう配慮している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるように表示や目印をつけている。居室内は、ご本人とも相談し使いやすい環境を整えている。		